

碩 心

可 行 認 會 風 岳 學 院 吟 詩 日 本 法 人 社 團
 川 奈 神 碩 心 會 發 行

7年4月現在 逗葉大山船 (合)	4月現在 地区地区計	會員數 175名 201名 45名 421名	7年4月 根編中	4月 岸村	(273号) 行者 萃者 愛
------------------------	---------------	------------------------------------	-------------	----------	-------------------------

行事予定

◎碩心会皆伝会

日時・5月6日(土)10時より
 場所・逗子図書館ホール

(5月1日付皆伝以上会員数)

総伝：17名 十段：45名
 9段：26名 皆伝：26名
 ……
 114名

◎県本部総会

日時・5月7日(日)9時30分より
 場所・県立横須賀労働センター

◎第4回神奈川地区青少年吟道大会

日時・6月4日(日)
 場所・防大中講堂

◎横須賀第二地区吟道大会

日時・6月11日(日)9時30分より
 場所・鎌倉中央公民館分館

◎碩心会寒河江吟行会

日時・6月18日(日)～19日(月)
 (3月末現在85名参加予定)

◎碩心会吟道温習会

日時・6月25日(日)9時20分より
 場所・逗子図書館ホール

当日は吟詠、許証授与、合吟コンクール、詩舞等行なわれます。

(合吟コンクールについて)

1チーム(5名)・参加資格は(9歳以下)
 課題吟は左記5題の中より

1 将に東遊せんとして壁に題す…1/39

2 城 山…1/48

3 述 懐…1/52

4 山行同志に示す…2/18

5 偶 成…2/21

~~~~~8~~~~~

## 全国大会表彰

4月9日の大阪高槻現代芸術劇場での第105回全国大会に於て、左記表彰されます。

指導者功勞の部 中村 岳 愛

## 奥伝合格 (平成七年四月一日付)

矢田香風 植村成風 井上豊風 川瀬幸風  
 岸田浩風 八尾昭風 神藤葉風 芹田春風  
 杉山美風 鈴木恵風 金子憲風

## 審査会講評の中より

(加藤岳相先生)

- 目の位置が悪い。(正面をむいて)
  - 背広のボタンは必ずかけること。
  - 教本は目の高さに。(高齢者)
  - 腹式呼吸を十分に。
  - 熟語の読みは間違いのないよう。発声の読みを正しく。
  - 覇気がなかった。声を大きく、口を大きく、深呼吸を大きく。
  - 俳句は母音に返してひく。
- (新田岳悠先生)
- 言葉は正確だった。
  - 間のびした人がいたが、きめられた時間体の中で。
  - 吟変りをしっかりと覚えてほしい。
  - 審査は自分自身に対する勝負。
  - 抒情詩：自分の心を如何に吟に現わすか。
  - 詩情を入れる勉強：よく素読する。素読の中にアクセントを入れて読む。
- (覚張岳環先生)
- 全体的に迫力があつたらもつとよいと思う。
  - マイクを有意義に使う。(ホールの場合)

○口をもう少しひらき、言葉をはっきり。

○腹式呼吸を活用。浅いから息がつかない。

○五言のおとしをしつかり身につけておく。

○言葉のつながりを如何に活かすかを勉強。

(岡嶋岳風先生)

○今日の注意は更によくするためのものである。この次は更にながらばってほしい。

~~~~~

詩吟との出会い

唐木山 海藤 喜代子

私の詩吟との出会いは二年前の六月でした。私用で、唐木山支部の先生でいられる寺脇先生の所に伺った時、年令よりも若々しく、品格のあるお姿にふれ、そこではじめて詩吟をおすすめいただきました。

ちょうどこの頃の私は、人生半ばの折返し点にきていることや、子供達も手が離れ、何か趣味を持ちたいと思っていた時でもありませんでしたので、喜んでお仲間に入れて頂きました。恥ずかしいことに、詩吟とはどんなものかわからずに入れて頂いた私でしたが、先生や先輩の方々の吟を聞かせて頂く時、何とも味わいのある事に魅了され、私も一日も早

く、あのように吟じたいと、お稽古が待ち遠しく思えました。しかし、一年位経った頃から、詩吟を学んでゆく事の難かしさを知りました。というのは、先生が親切に、丁寧に、直して教えて下さるのですが、自己流になつてしまい、中々直せず、嫌という程、自分の強固さが見えてきて、もう止めようと思う事度々でしたが、それでも、先生や先輩の吟を聞く度に、私にとって詩吟は最高に贅沢な趣味に思える程、心豊かな気分にはたらせて頂くのです。

昨年十月、葉山町文化祭詩吟詩舞の会に、先輩の方と合吟させて頂き、終つたら帰るつもりでしたが、次々と吟じられる方々の吟を聞いている中に、満喫させられ、とうとう閉会まで残ってしまいました。詩吟とは何とすばらしいものか：感動一杯で自宅に戻りましたが、今体調を崩され休んでいられる先生の所へ、お仲間に入れて頂いた事の感謝のひと言を申し上げたいと伺わせて頂きました。

これからは少しでも早く、味わいのある吟が吟じられるよう、又自己流にならないよう、お稽古を楽しむに励みたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

藤村の故郷を尋ねて

大船 A 岡本 瑞風

三月半ばの中央高速道は、まだ雪を残す中部山岳の墨絵のような山々を次々に描き出し、車内の私達を充分に楽しませてくれた。

しかし、馬籠に着いた時はみぞれまじりの雨になってしまった。ちよつと気の沈む思いだったが、山国の蔽しい冬の生活をしのんで、木曾路の古い街道の家並を眺めながら、だらだら坂を下つて行つた。姫街道とも言われる中山道を、往年の姫君達はどんな思いでこの道を通つたのであろうかと思ひをはせているうちに、藤村の生家に着いた。

藤村の生家は、明治維新まで、馬籠の庄屋、本陣、問屋をかねていた旧家であつた。今は藤村記念館になつていて、文学者藤村のいろいろな資料が展示されている。

藤村はこの山国の地で生まれ、九才までここで暮している。幼い時から四季折々微妙にうつりゆく自然の姿にふれ、感性ゆたかに育つたのであろう。子供心にも周囲の山の姿や流れゆく雲にも自然の神秘を感じ、雪がとけ、

草木の萌え出ずる春の嬉しさや美しさ、暮れゆく秋の寂しさなど、充分に体得したと思われる。

やがて修学のため上京し、泰明小学校、三田英学校を経て、明治学院普通部を卒業し、明治女学院の教師となつた。この頃から文筆活動を始めたという。

幼少時を山国の旧家の古い風習の中で育つた藤村の心の中には、明けゆく明治の風潮とはうらはらに、暗くよどんだものがあつたにちがいない。青春の湧き出ずるような熱い思いの発路を求めてなやむ日々であつたのではなからうか。

仙台の東北学院へ赴任し、一年を過した藤村は、「そこへ行つて初めて夜が明けたような気がした」と書いている。ここで、新体詩という新しい詩形で、初版「若菜集」を発売した。

この詩集の中には、有名な「初恋」や、詩吟の教本にある「秋風の歌」がのつている。秋風の歌は、「さびしさはいつともわかぬ山里に尾花乱れて秋風ぞ吹く」という前歌があり、詩は七五調四行詩が十一番まである。教本には一と六と十一の詩がのせられている。

つづいて一葉集「夏草」を発売した。第四集は「落梅集」と名づけられ、小諸義塾の教師として、信州小諸に赴任した頃の作品である。この中には、有名な「椰子の実」や、千曲川旅情の歌と題して「小諸なる古城のほとり」と「千曲川のほとりにて」(教本では千曲川旅情の歌)などがのつている。

藤村は漢詩にも精通していたのだろうか。李白の律詩「送友人」の「浮雲遊子意」があり「雲白く遊子悲しむ」が連想される。

いつしか雨も止んで、雨上がりの石畳が美しい。街道筋の家々は、古い日本家屋のたたずまいで、格子戸や土壁になつかしさを覚えらる。今はおみやげを商う家や、茶房、食堂、民宿などになつていて観光客を迎えている。宿場の入口に櫓形ますと呼ばれる空間がある。

これは幕府のお達しによつて、防塞施設としても作られており、敵の侵入を防ぐために道を直角に曲げるところである。ここ馬籠の櫓形は、急傾斜地につくられ石垣が築かれていて、城郭を思わせるようなものであつた。その夜、下呂温泉でゆつたりと旅の疲れをいやし、翌日は妻籠へと向かつた。

「桜花の詞」の中から

中村 岳愛

春四月は桜爛漫の好季節…。桜は日本の国花として、日本人が古今を通じて、広く深く愛する名花。そして私達詩吟愛好者の頭に浮かぶのは何といても「桜花の詞」の詩です。

この詩は、美しい桜の花を詠んだ、左記の和歌四首をいれこみ、情景を連想し、最後に桜と言えは吉野山…。その吉野に思いをはせ、南朝の歴史を偲ぶという手法をとっています。引用されている和歌四首を、勉強がてら取りあげてみることにいたしました。

(零丁宿を借る平の忠度)

平清盛の弟、薩摩守忠度は戦に敗れ、源氏に追われる中、おちぶれた不遇の身を、一夜桜花のもとに宿をとり詠んだのが次の歌です。
ゆきくれて木の下かげを宿とせば

花や今宵の主なるらん(平 忠度)

(吟詠風を怨む源の義家)

源義家は、奥州征伐の途すがら、勿来の関のあたりを過ぎる時、折からの風に、桜の散るのを惜しみ、次のように詠みました。

吹く風をなこそその関と思へども

道もせに散る山桜かな(源 義家)

(滋賀の浦は荒れて暖雪翻り)

近江の国、滋賀の浦あたりで、山桜の花の散るのを見て詠んだもので、千載和歌集に載っているが詠人知らずとなっている。//暖雪//とは桜の花の散る様を雪にたとえたもの。さざなみや滋賀の都はあれにしを

昔ながらの山桜かな (詠人不知)

(奈良の都は古りて紅霞簇る)

九重に咲き匂う八重桜をみて詠んだ次の詩は、伊勢大輔の作で古今集に載っているもの。//紅霞//とはここでは花がすみのこと、爛漫と咲き乱れる花を遠く眺めた形容詞。いにしへの奈良の都の八重桜

今日九重に匂いぬるかな(伊勢大輔)

~~~~~

(薄命)美人薄命という言葉があるが、ここでは美しく散る桜をさす。(旬日の寿)旬は、上、中、下旬の例があるように、元来は十日間を意味するがここではきわめて短時日の意。

(納言の姓)藤原中納言成範は、邸に多くの桜を植え賞でたので桜町中納言と呼ばれた。(南朝の天子)後醍醐天皇をさすとわれる。

指導者の皆様へ御礼

故妻沼田トク儀葬儀に際しては、御多忙中、遠路わざわざ御会葬下さり、御丁寧なる弔詞、御厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。早速拜眉の上御礼申し上げるのが本意ですが、略儀ながら書中をもちまして御挨拶申し上げます。  
沼田 岳雷

(入 会)

751 小形雄岳 横須賀市長沢一六九二

(逗子 A) ☎〇四六八一四八一四八八五

752 浅野健二郎 逗子市久木一四一

(真 澄) ☎〇四六八一七三一〇九四三

753 大谷英行 綾瀬市寺尾中一三三二

(松 和) ☎〇四六七一七〇一一二七八

754 林田 久 横浜市戸塚区川上町三四五一六

(真 澄) ☎〇四五一一八二二一四八四五

755 加藤玲風 横浜市港南区港南台 2-1-6-704

(大船 A) ☎〇四五一一八三三一一二二七

756 加藤力泉 (右と同じ)

(大船 A)

(退 会)

220 沼田龍山(上山口) 334 石井笑風(吟 詠)

537 武藤千山(真 澄) 659 若林江風(勲・A)

669 荒牧秀泉(下山口) 689 小見波貴泉(吟秀)